

§ 2. 『どこにいても いつまでも』

主題 「モビリティを保障して皆が住み続けられる街へ」

1. 高校生の A さんは、夏休みを利用して B 市のおばあさんの家へ遊びに行きました。小さい頃は家族に連れられていましたが、今回は鉄道やバスを使って一人で行きました。今回の訪問を経て、小さい頃と今回とでは A さんから見たおばあさんの生活は違ったものに見えました。A さんになったつもりで、ふき出しの中に言葉を書き入れてみましょう。

最寄り駅からおばあさんの家の近くまで行くバスの時刻表

平日		土・休日	
5		5	
6	10 55	6	10 55
7	8	7	8
8	14 32	8	14 32
9	18 19	9	18 19
10	43	10	43
11	43	11	43
12	43	12	43
13	43	13	43
14	43	14	43
15	43	15	43
16	43	16	43
17	43	17	43
		18	43

①

おばあさんと近所の家



おばあさんの話
『この地区に一番古くから住んでる隣の C さんも旦那さんを亡くして 15 年そこら経つでしょ。お互い一人暮らしだから、声をかけ合っているのよ。』

②

最寄り駅前の商店街



午前 11 時の商店街の様子
廃業してシャッターを閉めているお店も多い

③

おばあさん個人の乗り物



おばあさんの話
『バス停まで歩いていくのがたいへんなのよ。それにバスの本数が少なくて、不便で。自動車を一人で運転するのは不安で、免許も返納したいんだけど。でも、自動車が無いとねえ…。』

④

2. 吹き出しの中に書いた言葉を、近くの人と共有しよう。また、他の人の見方もふまえておばあさんが今後生活を送っていく上で困りそうなこと、場面について話し合い、出たことを書き出そう。

おばあさんが困りそうなこと、場面

3. AさんはB市に住むおばあさんが直面する問題について調査を行い、その結果を夏休み明けの授業で発表することにしました。以下の会話は、発表の前にAさんがお父さん、お姉さんと話した内容です。対話の中で空欄になっているところを、Aさんやお姉さんになったつもりで考えて書き入れてみましょう。

Aさん : お父さん。おばあさんの住んでいるB市について調べてみて、色々なことが分かったよ。

お父さん : どんなことが分かったのかな。

Aさん : これまで意識したことなかったけど、外出したりするのに困難な思いを抱えている人や地域があるってことかな。

お父さん : Aちゃん、大事なことに気が付いたね。そもそも、どうして困難な思いを抱える人や地域が出てきてしまうのかな？

Aさん : それは、

①：資料Ⅰ（P.4）の情報・データ等から考えてみよう

からだと思うわ。

お父さん : なるほど。それじゃあ、Aちゃんはそれに対してどうしていくべきだと思ったのかな？

Aさん : 私が思ったのは、

②：資料Ⅱ（P.4-5）の事例を参考に考えてみよう（評価できる点、新たな提案等）

ということよ。

お父さん : なるほど。いい考えだね。

お姉さん : 二人で何を話しているの？ ふむふむ……。Aちゃんの発表のキーワードとしてB市の「モビリティ」が挙げられるかもしれないね。

Aさん : 「モビリティ」って？

お姉さん：一般的には移動性や流動性と訳されているわ。B市で生活する人々が仕事や学校、買い物、病院に行く、友達と遊びに出かけるといった日常を過ごす中で必要となってくる移動が、どのくらいスムーズにできているか。逆にできないところを見つけるための視点としても大事なものよ。

Aさん：「モビリティ」かあ。誰にでも関わる問題だね。

お姉さん：そうだね。人間生きていればどこかで必ず移動する必要が出てくるし、子供から大人、お年寄りまで関係する話よね。いつ、誰にとっても「モビリティ」が保障されている社会が理想ね。

Aさん：よし。発表の題名は「モビリティを保障して皆が住み続けられる街へーB市を事例にー」にしよう。

お父さん：二人とも、なかなか議論が深まっているね。ただ、その理想をかなえるのは、実際には難しいこともあるんじゃないかな。発表する前に、指摘されそうなことをあらかじめ考えておくといいかもしれないね。

Aさん：指摘されそうなことかあ…。

お姉さん：例えば、

③：②で考えた対応策を実現・継続するために、想定される課題を挙げてみよう

という指摘が出るかもよ。

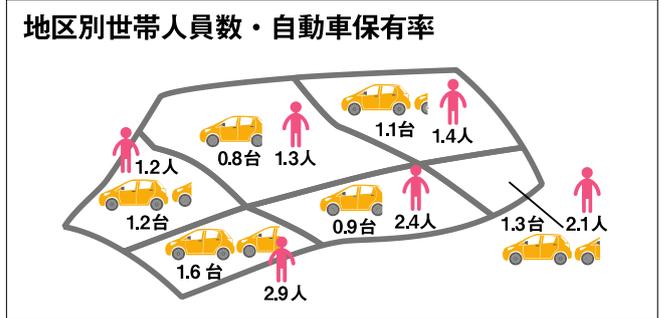
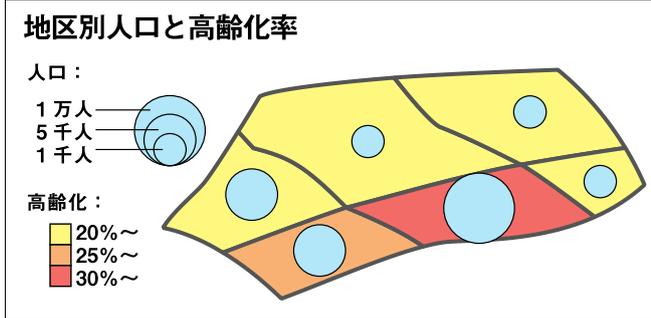
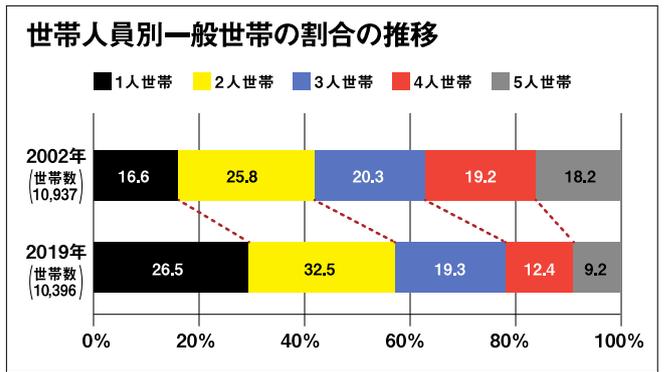
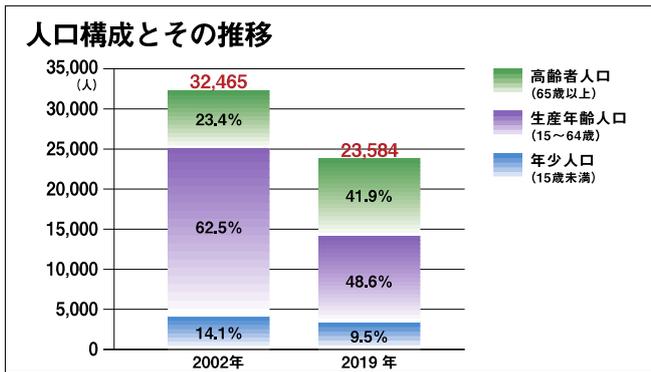
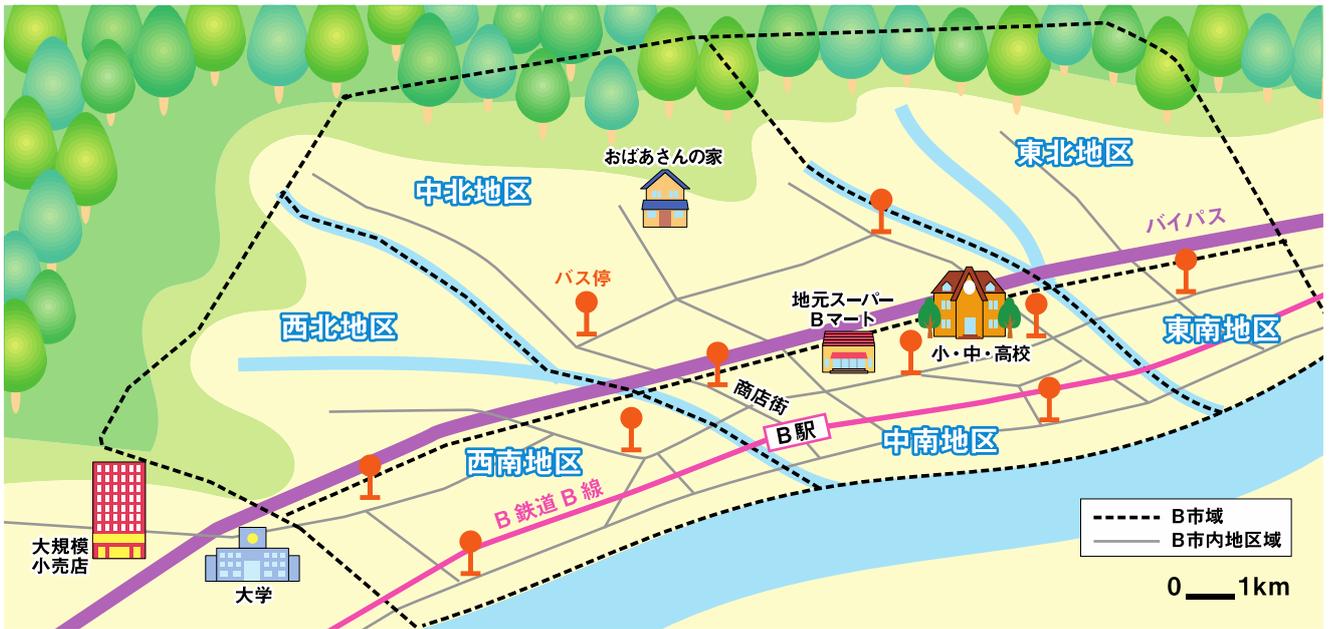
Aさん：うーん、なるほど。それじゃあ、それに対しては

④：③で挙げた課題に対して、どのような解決策があるか考えてみよう

というふうに答えてはどうか。

お父さん：その調子、その調子。あといくつか、ありそうな指摘や反対意見を出してみ、さらに発表内容を深めていけるといいね。

資料 I : B市の状況



資料Ⅱ：B市での支援事例（広報誌より）

1) コミュニティバスの運行

B市では2年前からコミュニティバスを導入。民間バス会社の撤退や路線数削減が進む中、比較的小回りがきき、価格も1回の利用で100円と低額で運行されている。このバスを利用しているというは、「自動車も自転車も乗らなくなったので、外出する際はとても助かっている」と話した。



ドライバーのFさんは、「毎日出動しており、やりがいを感じている。ただ、利用者それぞれで違う乗降地点を覚えておくことや、効率の良いルートを考えるは大変。車内での待ち時間が多くなってしまいう人もおり、今後どう運行していくのが良いのか模索している」と話した。

2) Bマートの移動販売

経済産業省の「地域自立型買い物弱者対策支援事業」を利用して、B市内のBマートが移動販売車3台を購入。昨年9月からB市内の3箇所週2回の移動販売を行っている。



Bマートの担当者であるCさんは、「高齢者など、足の遠のいていた常連さんにまた買ってもらえるようになって嬉しい。お客さんのニーズをつかんで少量のスポット販売を軌道に乗らせたい」と話した。

利用者のDさんは、「近くまで来てくれるので助かる。週2回と定期的なので、そのくらいのペースで買い足す生鮮食品を購入している。自分の目で見て買いたいものを買うというのは、思っていた以上に気分が晴れる。もう少し品数が増えればもっと嬉しい」と話した。

4.<関連トピックス> 高齢ドライバー対象の「限定免許」について考えてみよう。

高齢ドライバーによるクルマの運転事故多発に伴い、2022年の5月から75歳以上の高齢ドライバーを対象とした、衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い加速抑制装置が装着されたクルマ（「サポカー[※]」）に限定して運転できる「安全機能付き高齢者限定免許」を創設することとなりました。

Aさんのおばあさんもクルマの運転が不安になってきたことから、クルマの免許の返納を考えているようです。しかしながら、実際にクルマのない生活が不便であることも分かっているので、事故の不安さえ軽減できれば、クルマを使った生活を続けることができることでしょう。

このような安全機能付きのクルマに限らず、どのような限定免許制度があれば、高齢ドライバーが安心して運転することができるか、みなさんで話し合ってみましょう。

どんな限定免許制度があれば高齢ドライバーが安心して運転できるだろうか

※サポカーとは

「サポカー」：先進安全技術である衝突被害軽減ブレーキを搭載したクルマ

「サポカーS」：衝突被害軽減ブレーキに加え、高齢者に多いアクセルとブレーキの踏み間違い防止機能を備えているクルマ